

# 岡山県金融経済動向

## 1. 概況

県内景気は、回復を続けている。

すなわち、最終需要面をみると、設備投資は堅調に推移している。輸出も海外経済の拡大を背景に増加している。また、個人消費は底堅く推移している。一方、住宅投資は弱めの動きがみられるほか、公共投資は基調としては低調に推移している。

県内主要製造業の生産活動は、内外需要が堅調に推移する中、振れを伴いつつも緩やかな増加傾向にある。

雇用・所得環境をみると、労働需給が改善を続ける中で、雇用者所得は基調としては緩やかな増加傾向にある。

## 2. 実体経済

### (1) 個人消費

個人消費をみると、底堅く推移している。

すなわち、7月の販売動向をみると、百貨店売上高は、身の回り品が引き続き好調に推移したものの、食料品が苦戦したほか、気温低下の影響から衣料品も低調であったため、2か月振りに前年を下回った。スーパー売上高も、天候不順の影響などから衣料品や食料品が不冴えとなったため、前年割れとなった。また、家電販売も、大型・薄型テレビは買い替え需要を中心に堅調であったが、エアコンが気温低下の影響により不振であったことから2か月振りに前年を下回った。このほか、乗用車販売では、小型車を中心に販売が引き続き低調なため、全体では8か月連続で前年を下回った。

一方、旅行取扱高は、国内旅行は不振であったものの、団体を中心に海外旅行が堅調に推移したため、2か月振りに前年を上回った。

この間、主要観光地への入り込みをみると、県外観光客が増えていることもあって、多くの施設で前年を上回った。

## ( 2 ) 設備投資

県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、19年度の設備投資計画(6月短観調査)をみると、非製造業では小売、建設、リース等を中心に小幅の減少計画にある(前年比 1.6%)が、製造業では、化学(競争力強化、能力増強)、石油・石炭製品、輸送用機械(能力増強)、木材・木製品(効率化)を中心に増加計画となっている(同+11.0%)。この結果、全産業ベースでも増加計画となっている(同+6.4%)。

なお、前回調査(3月調査)と比較すると、電気機械、輸送機械、一般機械等の製造業を中心に上方修正されている。

月次の指標をみると、建設投資の先行指標である着工建築物床面積(非居住用)は、足もとでは前年を上回っている(前年比:19/1~3月 16.5% 4~6月+18.7%)。

## ( 3 ) 住宅投資

最近の県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、貸家を中心に弱めの動きとなっている。6月は、マンションは前年を上回ったが、持家が高伸した前年の反動から前年割れとなったほか、貸家も前年を下回った(前年比:5月+5.3% 6月 23.4%)。

## ( 4 ) 公共投資

公共投資は、基調としては低調に推移している。発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、7月は「県」、「その他の公共的団体」が高伸した前年を下回ったものの、「国」、「独立行政法人等」、「市町村」で、大型工事の発注などから前年を上回ったため、全体では3か月振りに前年を上回った(前年比:6月 7.3% 7月+1.0%)。

## ( 5 ) 輸 出

輸出は海外経済の拡大を背景に増加している。

すなわち、7月の県内輸出(通関実績)をみると、アジア向けが鉄鋼、化学を中心に堅調に推移しているほか、中東欧・ロシア、西欧向けが自動車(完成車)を中心に高い伸びを続けている(前年比:6月+31.7% 7月+23.7%)。

## ( 6 ) 生産・出荷・在庫

6月の県内鉱工業生産指数(直近計数)の前年比は、輸送用機械、鉄鋼で上昇したものの、定期修理を行った化学で大幅な低下となったことなどから、全体では2か月連続の低下となった(前年比:5月 0.7% 6月 7.9%)。

季調済前月比でも、化学、電気機械を中心に、全体では3か月連続で低下した(季調済前月比:5月 3.7% 6月 3.3%)。

この間、在庫指数は、繊維、電気機械を中心に、13か月振りに前年を下回った(前年比:5月+4.7% 6月 5.2%)。

県内主要製造業の最近の生産動向(10業種、付表参照)をみると、造船、工作機械では、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。鉄鋼、石油精製、電気機械でも、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けている。耐火物では、大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。また、石油化学では、5~6月に本格化した定期修理の影響が7月には緩和されたことから、生産水準を戻している。この間、自動車は、7月は新潟県中越沖地震の影響により部品供給がストップし、操業停止を余儀なくされた先があるため、生産台数が減少したものの、足もとでは輸出向けを中心に高操業を続けている。このほか、農機具では、末端需要の低迷等から全体としては低調な生産を続けている。繊維でも、安価輸入品との競合や海外への生産シフト等から、全体として低水準にある。

こうした中、造船、工作機械、自動車のうち繁忙度が高い一部の先では、残業等による生産対応を続けている。

## ( 7 ) 雇用・所得

労働需給面では、6月の所定外労働時間が前年を上回った(前年比:5月 0.0% 6月+1.5%)ほか、7月の有効求人倍率は、高水準を続けている(6月 1.43倍 7月 1.43倍)。雇用面をみると、6月の常用労働者数は、前年比マイナス幅を若干縮小させた(前年比:5月 1.0% 6月 0.7%)一方、7月の解雇者数は高めの水準にあり、雇用保険受給者数も前年を若干上回っている。このように、県内の雇用関連指標は足もとでは弱めの動きもみられるが、総じてみれば改善傾向にある。

賃金をみると、6月の一人当たり現金給与総額は、前年を下回った(前年比:5月 0.6% 6月 0.8%)。

この結果、雇用者所得は、足もとでは前年を下回ったものの、基調としては緩やかな増加傾向にある。

## ( 8 ) 物 価

最近の岡山市消費者物価指数（平成 17 年基準、生鮮食品を除くベース）は、被服及び履物、教養娯楽等で前年比低下が続いているが、生鮮食品を除く食料、家具・家事用品、保健医療等が前年を上回って推移しているため、全体では前年比プラスとなった。

## ( 9 ) 企業倒産

7月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額 10 百万円以上）をみると、倒産件数（22 件＜前年 18 件＞）は前年を上回ったが、負債総額（80 億円＜同 254 億円＞）は、前年に大型倒産が重なったことから、前年を大幅に下回った。

## 3 . 金 融

### ( 1 ) 実質預金

7月の県内実質預金をみると、個人預金が夏季ボーナス資金や団塊世代の退職金の流入などから前年比プラス幅が拡大したほか、公金預金も前年比プラスに転化した。また、法人預金の伸び率も前年並みとなったことから、実質預金全体の伸び率は拡大した（月中平残前年比：6月 + 1.1% 7月 + 1.8%）。

### ( 2 ) 貸 出

7月の県内貸出をみると、地公体向けが横ばいで推移する中、企業向けが設備資金を中心に伸び悩んだものの、個人向けが住宅ローンを中心に堅調に推移したことから、貸出全体はプラス幅が拡大した（月中平残前年比：6月 + 2.0% 7月 + 2.2%）。

### ( 3 ) 貸出約定平均金利

7月の新規貸出約定平均金利（総合ベース）は、2か月連続して前月比上昇した。また、ストック金利（同）も 16 か月連続で上昇した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707

岡山市丸の内 1 - 6 - 1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086 - 227 - 5111 (代表)

FAX 086 - 227 - 6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

## 主要製造業の生産動向

業 種	足もとの動向
自動車	<p>全体としては、高操業が続いている。</p> <p>国内向け生産は、小型車は一部車種の他工場への生産移管により減少している。一方、軽自動車は、他社向け供給の効果が継続しているほか、在庫調整の進捗から生産水準を若干引き上げている。輸出向け生産は、完成車がロシア、中東向けを中心に堅調なほか、北米、欧州向けも新型車投入や他社向け供給の効果から増加している。このほか、KDも新車投入等から持ち直している。</p> <p>この間、7月は新潟県中越沖地震により部品供給がストップし、操業を停止した先があるため、生産台数は減少したが、足もとは操業を再開しており、生産ラインでは、残業、休日出勤による生産対応を続けている。</p>
造船	<p>高操業が続いている。</p> <p>大手先の造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンのほか、産業機械向け受注も堅調に推移しており、高操業を続けている。</p> <p>この間、生産現場では、残業による生産対応を続けている。</p>
石油精製	<p>原油処理量は高めに推移している。</p> <p>製品別にみると、ナフサは、石化メーカー向けが堅調に推移していることから、高めの生産水準となっている。ガソリンは、需要が弱含んでいるものの、国内製油所での設備不具合の影響から需給が逼迫したため、やや高めの生産水準となっている。軽油は、内需が底堅く推移しており、輸出向け需要も好調であるため、高めの生産水準となっている。灯油は、燃料転換の進捗により内需が基調として弱含んでいるものの、冬の需要期に向けた積み増しが始まっており、やや生産量が増加している。重油は、生産量が減少傾向にある。</p>
石油化学	<p>定期修理の影響が緩和され、全体として高めの生産水準に復帰している。</p> <p>製品別にみると、ポリエチレンは、定期修理の影響が若干残ったものの、需要は堅調に推移しているため、高めの生産水準となっている。塩ビ樹脂は、堅調な需要を背景に、高水準の生産となっている。ポリスチレンは、汎用品の需要が弱含んでいるものの、より高付加価値な製品へと生産をシフトしており、高水準の生産となっている。</p>
鉄 鋼	<p>粗鋼生産量は、堅調な内外需要を背景に高水準にある。</p> <p>製品別の動向をみると、薄板類は、高付加価値品、汎用品ともに需要が好調であり、全体としては高水準の生産を続けている。厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。形鋼類は、定期修理により生産水準が若干低下しているが、民間建設向け需要が堅調なことから、全体としては高めの生産となっている。棒鋼類は、一部に定期修理の影響がみられるものの、自動車向けや、民間建設向けの需要が堅調なため、高めの生産を続けている。</p>
耐火物	<p>大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。</p> <p>大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。</p>
電気機械	<p>全体として、高めの生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、電子部品は、液晶関連、携帯電話関連の受注が増加傾向にあり、高めの生産を続けている。スイッチも、携帯電話関連を中心に受注が堅調なため、高操業を続けている。デジタルビデオカメラは、低水準の生産が続いていたが、足もとは新製品投入によって、持ち直してきている。</p>
織 維	<p>全体としては低水準の生産が続いている。</p> <p>製品別にみると、綿織物、合繊織物は、安価輸入品との競合等から、全体としては低水準の生産が続いている。また、ジーンズ、作業服は、海外生産シフトの影響等から、低水準の生産が続いている。学生服は、海外拠点への生産シフトにより生産量は減少傾向にある。</p>
工作機械	<p>高操業が続いている。</p> <p>NC旋盤は、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、海外からの受注が堅調で、高操業を続けている。また、MC(マシニングセンター)も、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、高操業を続けている。</p> <p>こうした状況下、生産現場では、残業、休日出勤による生産対応が続いている。</p>
農 機 具	<p>全体としては低調な生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、携帯用刈払機は、欧州向けを中心とした海外需要が堅調に推移しているが、前倒し生産の終了等から、足もとの生産は低調に推移している。また、コンバインは、国内での末端需要が低調なほか、端境期にあるため在庫調整を継続しており、全体としては低水準の生産が続いている。</p>